



海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

香港稲門会について

ながりを維持することができています。
ここ香港でもコロナ禍の規制は昨年よりだいぶ緩和され、3年ぶりに対面での総会と早慶合同パーティー、クリスマスパーティーを開催できました。今後はゴルフイベントの再開が待たれます。
クリスマスパーティーは家族も気軽に参加できるイベントとして開催しており、子どもも楽しめる企画や、景品がもらえるラッキードローなどを行い、家族にも稲門会の魅力を伝えていきます。景品については、多種多様な業界に携わる多くの会員の皆さんからの寄付により成り立っています。
また、若手会や早慶女子会などの活動や、稲門会で知り合ったメンバー間で親交を深めるなど、稲門会を起点とした交流の発展が多くあります。

宮澤匡起(2004年政経)

香港の魅力

ある街だと言えます。
大塚 猛(1977年教育)

(上)ビクトリア・ピークから望む朝日
(下)ペニンシュラホテルの旧正月デコレーション



in Hong Kong

香港 稲門会

会長メッセージ

香港稲門会の特徴の一つに、会員の多様性があります。校友の方々から、香港の各大学へ留学中の現役学生の皆さんまで、世代はもちろん、国籍や職業を超えて異なるバックグラウンドを持つメンバーが集う場となっています。それは、さまざまな文化を持つ国の人たちが互いを受け入れながら繁栄してきた、多様性にあふれる国際都市香港を、まさに体現しているかのようです。
国際都市であるがゆえに、元香港稲門会メンバーの皆さんも世界中で活躍されています。2020年、コロナ禍での初オンラインイベントと

なった年次総会では、日本、中国、米国、シンガポール、ドイツなどからも元香港稲門会メンバーが参加、大同窓会となりました。また、ゴルフや合同パーティーを通じて、永遠のライバルである慶應義塾大学関係者の皆さんとの交流も活発です。
「集り散じて 人は変れど」、にぎやかな香港稲門会の場と香港がつなぐ縁は、今後もきっと変わらず、多くの校友の皆さんを魅了してやまないことでしょう。

鷲北健一郎(1987年政経)

会員からのメッセージ

初の海外駐在として2021年11月に香港に赴任してきました。コロナ禍の香港においていろいろと不安が残る中、現地の生活面の情報収集や日系コミュニティとのネットワークを広げるため、香港稲門会に入会しました。納涼&懇親会、早慶合同パーティーに参加しましたが、さまざまなバックグラウンド、キャリアを持った方々と世代を超えて、異国の地で交流できることは大変貴重で、とても楽しい時間を過ごすことができました。香港稲門会に入会して本当に良かったと思っています。
カムチャイバイ クンラウィッチ
(2006年アジア研修)

「それ！」掛け声とともに怒濤のごとく空になる杯にちょっとビビった、早慶合同パーティー。その数カ月後には、場々とトナカイに扮してプレゼントを配る自分がいました。多種多様な人を受け入れる包容力、受け継がれる早稲田魂、そして各方面で活躍するパワフルで温かい先輩方の存在は、香港稲門会だから感じ得たものでしょう。私は数カ月後には香港を

離れます。稲門会のさらなる発展と、続く後輩たちも唯一無二で貴重な経験が得られることを願っています。
江 迺悠(2014年政経)
2016年に香港人の夫と結婚し、暮らし始めてはや7年。香港稲門会には、早慶合同パーティーに初めて参加したのがきっかけで、その後行われるイベントにも参加するようになりました。ラマ島でのハイキングではとても楽しい時間を過ごしましたが、翌日は慣れない運動をしたせいで、激しい筋肉痛に襲われました。現在ではそれも含めて、とても良い思い出です。
秋草ゆり子(2009年文学)

私は駐在員として香港に赴任し、真っ先に香港稲門会に入会しました。というのも、在学中から同郷出身者の「東北学生稲門会」、留学先では「シアトル稲門会」に参加していたことから稲門会へのなじみが深く、ネットワーキングに有益な場としての認識があったからです。特に右も左も分からず降り立った異国の地では、多くの先輩方のお話が聞ける稲門会の存在は大きく、常々「早稲田っていい大学だなあ！」と思います。

山形鴻夢(2017年国際教養)

約110人が参加した早慶合同パーティー

